

進路だより

2019年4月10日(水)
貝塚市立第二中学校
三年生NO1

新しい出会いを大切に

いよいよ新学年のスタートですね。今度のクラスにはどんな仲間がいるのだろうか？担任の先生はだれに決まるのだろうか？教科の先生は変わるのだろうか？クラブの顧問の先生はどうなるのだろうか？…と、みんなはドキドキワクワクの中、昨日の始業式を迎えたことと思います。そして、きっとたくさんの新しい出会いがあったことでしょう。この新しい出会いを大切に、中学生生活最後の一年間を、一日一日味わい楽しみながら過ごしていけたらいいですね。

進路だよりを発行します

これから一年間、この三年生進路だよりでは、進路に関する様々な情報を発信していきます。必ず、すべてに目を通し、配布されたその日のうちに、家庭で保護者に見せてください。重要な情報を後で「見ていなかった」ということが絶対ないようにしてください。

お知らせ 4月23日(火)

5限参観、PTA総会、修学旅行説明会、第一回進路説明会

*進路説明会は、二学期に第二回を行う予定です。

このみち

金子みずず

このみちのさきには、
大きな森があろうよ。
ひとりぼっちの榎(えのき)よ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
大きな都があろうよ。
さびしそうなかかしよ、
このみちを行こうよ。

このみちのさきには、
大きな海があろうよ。
はす池のかえろう(かえる)よ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
なにかなにかあろうよ。
みんなでみんなで行こうよ、
このみちをゆこうよ。

●子どもの気持ち・保護者の気持ち

「ついに三年生になってしまった」……「進路」という言葉を聞くと、君たちも保護者の方も、そう思うのではないのでしょうか。

左ページの「このみち」のように、みんなは、自分の進むみちの先には何が待っているのか、期待もあるけれど、不安の方がいっぱいかもしれません。

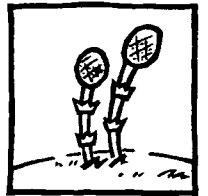
保護者の方も、君たちを見ているといろいろ不安になることもあるようです。「この子は自分の将来のことを考えているのだろうか？」「いつになったらこの子は勉強するようになるのか？これで間に合うのか？」「私がこんなに心配しているのに…」と、どんどん心配になってしまうものです。

そして、だいたい人の不安の原因は「まず、何を考えて何をやればいいのかわからない」ということでしょう。だから大人から「何も考えてない」「何も取り組んでない」といわれたりする事もあるのではないのでしょうか。

●「自分の進路は自分で決める」ために

進路に向けてどういう事をすればいいのか？ということこれから一年間、いっしょに考えていきましょう。私たち三年生の教師は、皆さんにさまざまな情報を提供し、見通しを示しながら、将来を考えるきっかけを提供したいと思います。

そして、最終的にみんなが、それぞれ「自分のみち(進路)を自分で決めて進んでいってくれること」が私たち教師の目標です。進路は先が見えないから不安なもの。けど、「不安だ。何をしたいかわからない」といって何もしないのが一番よくないことです。とりあえず、昨年度の校長先生のお話にあった「ま・つ・や」をしっかり取り組んで下さい。



【1】しっかり授業に取り組む。(まなぶ)

一時間、一時間の授業で、みんなが着実に力をつけてくれることが私たち教師や保護者、生徒共通の願いだと思います。そのために、三年生では特に授業態度や提出物を大きく評価します。おたがいの進路を大切にするために学校生活の中心である授業を大切にしましょう。

【2】班で声をかけ合う(つながる)

学習していてわからないことが出てくるのは当たり前。わからないことは班の仲間に聞く。また、班でやる気のない人がいたら声をかける。人に教えること、声をかけることが自分の値打ちを発見するきっかけにもなります。

【3】毎日家庭学習をする習慣をつけて、続ける。(やりきる)

1年生、2年生で学習が不足していた人は、この3年生の間にはやり直しがききます。しかし、これから1年間は、やり直しがききません。自分の目標のために、学習の習慣をつけ、一年間やり切りましょう。

裏へ続く

■ 保護者の皆様へ

子どもたちといっしょに歩いていたら

「ついに我が子も中学三年生になった。」…そう思うと、それだけでなんだか緊張してしまうものかもしれません。「今年は我が家も大変だ」と思う方も多い事でしょう。けれども、子どもが進路選択を迎える年というのは、「楽しみ」はないものなのでしょうか。

もちろんそんなことはありませんね。

何より、「大人になっていく自分の子ども」を発見する、保護者の方としても感激できる年のはずです。急激に大人に近づいていく、たくましくなっていく子どもたちを間近に見るのは、大人のわれわれにとって刺激的な事ですね。

また、この1年は、ご家庭でも、大人としてのご意見、ご経験など、「生き方」を子どもたちに伝えるまたとないチャンスだと思うのです。子どもたちは「自分の保護者や他の大人が今までどう生きてきたか？」という事にはとても興味を持っていますから、ぜひ話してみてください。それはまた、われわれ大人自身にとっても自分自身の人生を振り返り、これからを考えるきっかけにもなると思います。子どもの相談に乗りながら、子どもといっしょに考えていく事で新たな発見（子どもについて、自分について）がきっとある事でしょう。そう考えると、進路の年も楽しみが生まれてくるような気がしませんか？

「自分の進路は自分で決める」ということについて

先に、子どもたちに向けて「自分の進路は自分で決める事が大切」と書きました。こう書くと、「保護者は子どもの進路に口をはさめないのかな？」と心配される方もいるかもしれませんが、そうではありませんね。

保護者として、子どもたちの生活や経済的な事などの面倒も見ていく保護者が、子どもの進路に関して意見を言うのは当然の事です。そして、保護者としての意見や願いがあります。子どもの将来を思っているからこそ、「こうなってほしい」と願います。そういう意見や願いなどは、ぜひ子どもたちに伝えて頂きたいと思います。

けれども、子どもには子どもの願いや意見もあります。お互いに意見が食い違い、衝突する事もあるでしょう。そういう時には、「お互いの意見をしっかり相手に伝えたい」ので、いっしょに考えていく「事が必要」になってきます。

最終的にはその人生を歩いていくのは子どもたちです。どんなに「子どもによかれ」と思ってすすめた道でも、必ずよいとは限りません。そんな時、子どもがつかうからといって、大人は子どもに代わってあげる事はできません。

「自分の進路は自分で決める」という事は、そういう進路の分かれ目で決断していく子どもたちを「大人の一人として認める」という事でもあるのです。子どもたちが大人になっていく大事なチャンスをいっしょに応援していってもらえればと思います。

たかが入試、されど入試

ところで、大人の立場からすれば、「中学校卒業の時点で、先までの進路がすべて決まってしまうものではない」事は、ある意味であたり前の事でしょう。先の見えない子どもたちは、(まだ人生15年ですから)不安になりがち。「これですべてが決まってしまう」と思いがちです。そういう時こそ、先の人生を歩いている大人として、「たかが入試」というようなゆったり、どっしりとした立場で接する事も大切で、その方が子どもたちは安心して力を発揮できると考えます。

けれども、そうは言っても、「されど入試」。人生の節目で最大限の努力をすることは大切な人生経験です。子どもたちがこれからの道を自信をもって生きて行けるように、励ましてあげるために保護者と教師が手を携えていきましょう。

